

【底生生物調査】

第 2 章 底生生物調査の概要

現地調査は、底生生物調査と周辺海域貝類調査の 2 項目について実施した。

2.1 底生生物調査

試料（底生生物・底質）採取は、船上よりスミス・マッキンタイヤ型採泥器を垂下し、川底の表層土砂を 3 回採取（1 回あたりの採泥量は、約 2,700cm³）し、船上でバットにあげて混合し 1 検体とした。

底質分析用試料については、泥色、泥温、臭気を観測後、試料瓶に分取した。

底生生物用試料は、前処理としてふるい(1mm メッシュ)分け、バカガイ以外の種についてはホルマリン固定し、バカガイについては現地にて計測後放流した。

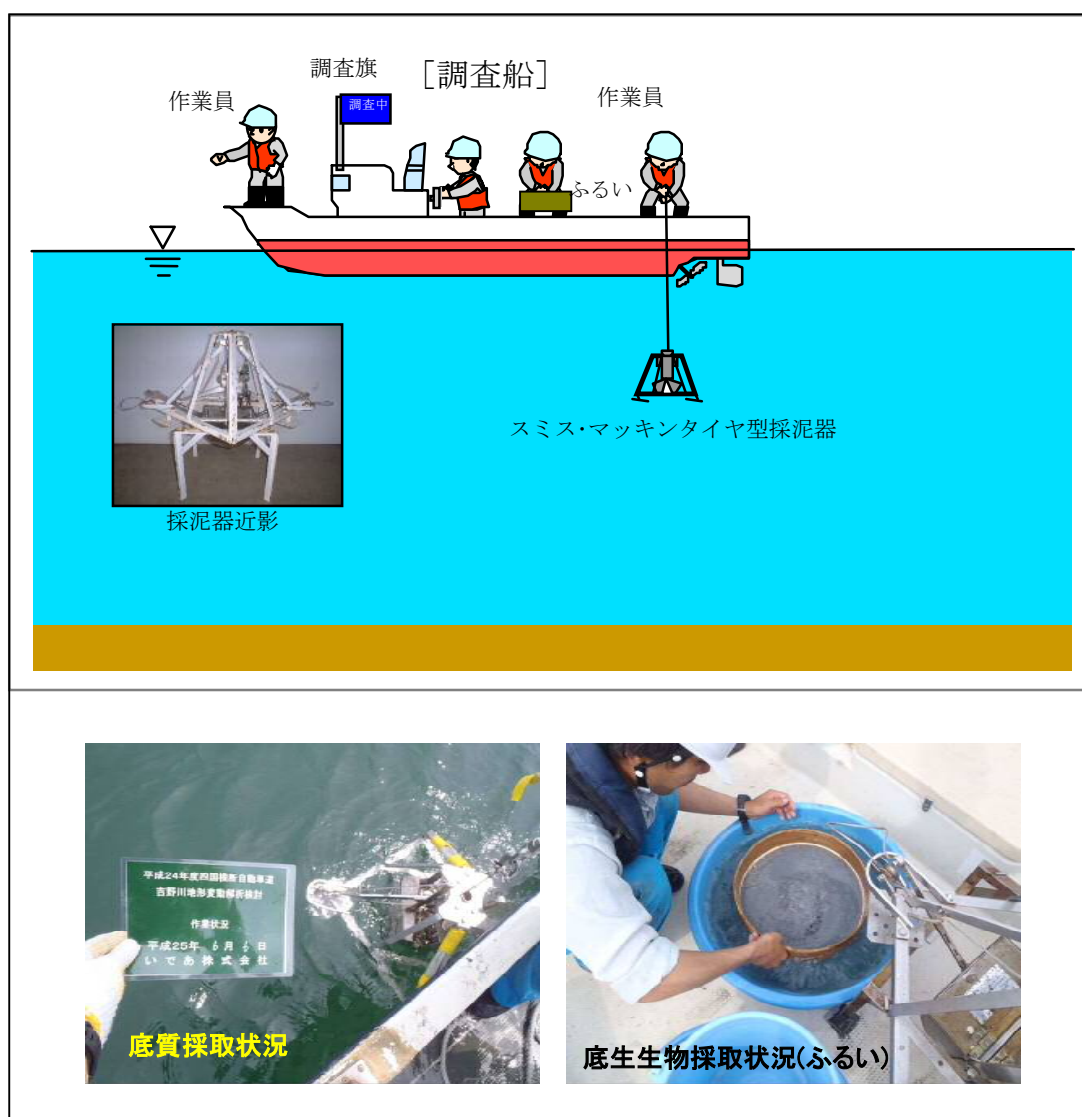


図 2.1-1 調査方法

底生生物調査の調査範囲を図 2.1-2 に、調査時間を表 2.1-1 に示す。

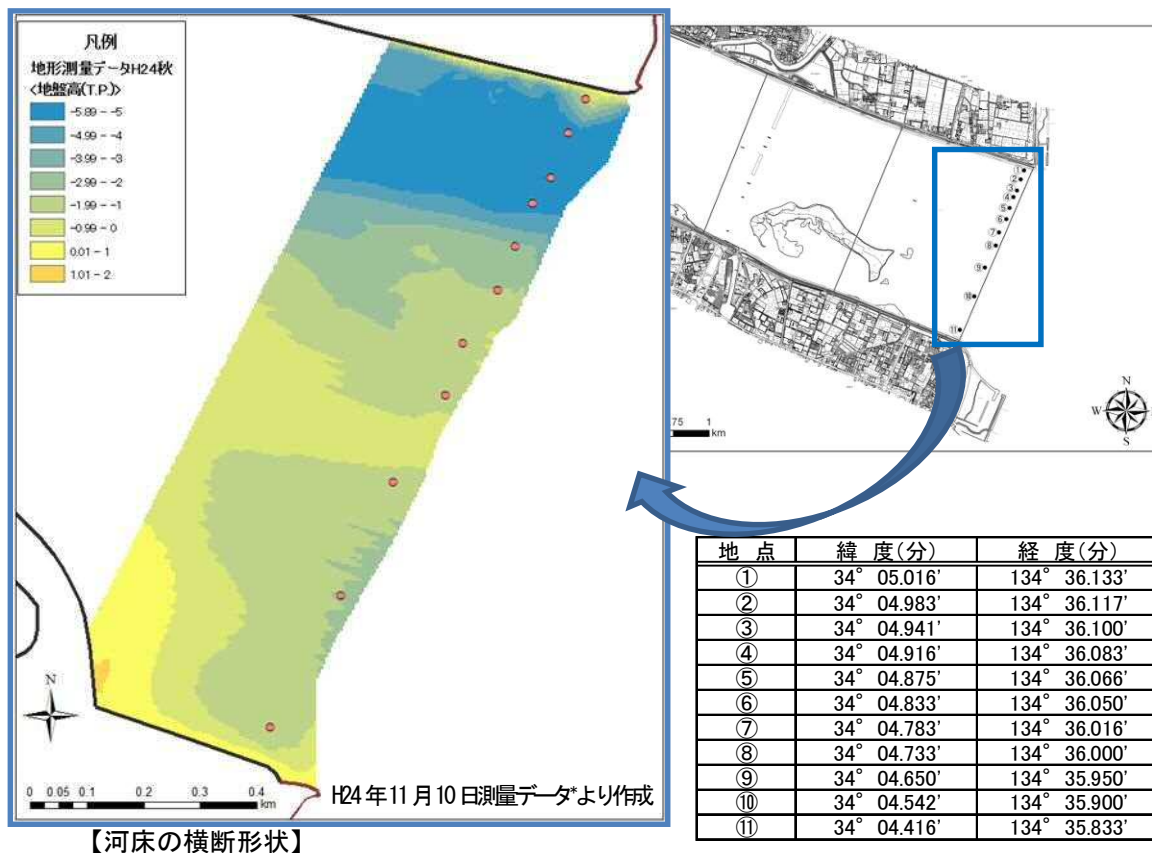


図 2.1-2 調査位置

表 2.1-1 調査日時

調査点	調査日時	潮汐
①	6/6 9:49	干潮
②	6/6 10:24	干潮
③	6/6 10:51	干潮
④	6/6 8:31	下げ潮
⑤	6/6 13:22	上げ潮
⑥	6/6 13:42	上げ潮
⑦	6/7 8:25	下げ潮
⑧	6/6 13:59	上げ潮
⑨	6/6 9:17	下げ潮
⑩	6/7 8:58	下げ潮
⑪	6/7 9:23	下げ潮

2.2 周辺海域貝類調査

調査は、下記の方法で汀線と並行に徐々に場所を移動しながら実施した。

- ①地点に到着後、GPSにより位置を確認、水温を記録。
- ②汀線下から水深1m程度以浅の位置において、タモ網により、表在性貝類を採取。
小型の個体は、フルイも活用して分別した。
- ③フジノハナガイの同定、個体数計数、大きさを記録、写真撮影。
- ④採取位置の水深を計測。
- ⑤採取した貝類の放流。
- ⑥フジノハナガイ以外に貴重性が高い種（オオモノハナ等）を採取した場合には、採取位置を記録。



図 2.2-1 採取状況

周辺海域貝類調査の調査範囲を図 2.2-2 に示す。当地にて、海浜の水深 1m 程度以浅の範囲で実施した。



図 2.2-2 調査場所

調査は、上げ潮時間帯と下げ潮時間帯を含む、平成 26 年 1 月 10 日午後と 11 日午前に実施した。調査時の概況を表 2.2-1 に示す。

表 2.2-1 調査日時

	1 月 10 日	1 月 11 日
調査地点	小松海岸	長原海岸
調査時刻	11:00~17:00	8:30~12:00
天候	晴	晴
水温	11.6℃	10.6℃